

1、「蘭学」の伝来

江戸時代は徳川将軍家が幕府という武家政権を通して日本を統治していた時代である。江戸時代初期から日本人の外国人との出入国と貿易は制限され、長崎の出島で、特定の国との間でのみ通商が認められていた。正確には、中国(明朝と清朝)とオランダの間では通商が、朝鮮王朝と琉球王国とは「通信」が行われていた。この間、日本は世界から孤立していたと考えられがちだが、オランダに毎年提出させていた「オランダ風説書」などで海外事情を手に入れており、当時のヨーロッパの知識と技術は基本的にオランダ語で翻訳されていたので「蘭学」と呼ばれる。

2、歴史の下で堀田正睦の選択

江戸幕府後半、佐倉藩の堀田正睦は西洋の技術と学問の導入に非常に熱情を持っており、「蘭癖」と呼ばれている。堀田正睦は佐倉藩を発展させるために藩政改革を指導した。そして、西洋医学に熟達した佐藤泰然を佐倉に招いて藩内の西洋医学向上につなげようと考えた。その後、泰然は佐倉へ移住して、近代的な病院兼学校を建て、蘭医学を教えた。順天堂医学塾である。この選択は佐倉市現代医学の開発のために非常に強固な基盤となった。当時は、「西の長崎 東の佐倉」と言われていた。江戸時代の二つ蘭学先進地の表現である。

3、「順天堂」という名称のいわれ

「順天堂」という堂号の由来は、中国の「易経」に由来している。「順天」とは「天道に従う」、すなわち「自然の理に従う」ということを意味している。西洋文明の大きな波が急速に近づいても、中国文化の思想はまだ日本に多くの影響を与えていた。当時の順天堂は全国から生徒を募集したので、多く医学に熱情を持っている人々が集まった。

4、順天堂の伝承

順天堂の創立者佐藤泰然は退位後、優秀な弟子の山口舜海を養子にし、すべての財産と順天堂の継承権を譲った。舜海は佐藤尚中と改名した。実子を後継者とすることにこだわらず、医者として有能な人物を選んだ進歩的な選択は、代々受け継がれ、これが順天堂の発展する一要因となった。

順天堂の後継者たちは医学の分野で活躍し、東京にも順天堂病院を開設、医学の発展に貢献する人材を育て続けてきた。これが現在の順天堂大学となっている。泰然の実子たちも非常に優れていて、医者や外交官、教育者として様々な分野で活躍した。

5、展示品を見てからの感想

現在の記念館の建物は、昔の順天堂の一部しか残っていない。昭和60年(1985年)からは佐倉順天堂記念館として公開されている。1月に大学の先生たちと一緒に見学した時、様々な展示品を見た。

- 1) 最初に感じたのは、ここでは実践が非常に重視されていたことである。医者たちが畳の上で手術をする時の絵がある。当時の医師は麻酔薬が体に良くないと思っていたので、手術の時麻酔薬を使わず、患者の手と足を押えて手術を進める時代があった。始まる時は患者がすごく痛いので、すぐに

失神して、痛感がなくなった。初めて見た驚きと同時に、学生たちが真剣に観察しながら、メモを取る絵があった。これは現代の病院の実習生制度の雛形だと思う。

- 2) 医者としての要求は非常に高い。館内でオランダ語を日本語訳に翻訳した本がたくさんある。理由を聞くと、順天堂講義の日程によって学生たちは医学を勉強する前は、オランダ語を学ばなければならない。しかし、当時辞書がないので数名の学生たちはひとつの本を読んで、一緒に研究し、翻訳していた。その後、教育システムが改善され医学の違う分野で、違う先生に教えられた。学生たちは毎日勉強し、週末もない。さらに、学生たちは医者としての活動を規範するために、順天塾規則を設けた。順天堂の学生は医者になるためにたくさんの努力を払わなければならない。実は現在も同じで世界中の国家は医学部の学業期間を大体五年間に定めている。過去でも、現在でも普通の学生たちより医者に要求が高いことが分かった。そこで、これらの展示を見学した後、私は医療従事者に対する尊敬がさらに高まった。

6、ようこそ、順天堂へ

私は順天堂に入って、初めて日本の医学歴史に触れた。時代感の濃い場所から強い感動をもらった。しかし、私が感動したのは医者たちが医療事業に対しての熱情と緻密さだけでなく、当時の人々は新たな物事に対する追求と革新の精神を持っていたことにも感動した。どんな時にも、私たちは医者に感謝すべきである。彼らの努力のおかげで、今の私たちは健康や生活を楽しめるのではないだろうか。

順天堂記念館には日本語、英語、中国語のパンフレットがあり、とても便利で係員も熱情的である。もしあなたが医者であるか、または町の中に秘境を探したいなら、必ず千葉県佐倉市順天堂記念館に来てください。ここは、あなたを必ず感動させる場所だと思う。